

富根報徳番楽

兄弟2人が伝統を継承



舞方とはやし方で構成。7月23・24日の^{あたら}愛宕神社祭典などで披露されます。現在継承されているのは大黒舞やえびす舞、翁舞など約15演目。床を力強く踏み鳴らしながら踊るのが特徴です。番楽の伝統をつなげようと2人の兄弟が練習を頑張っています。保存会のメンバーも「回を重ねるごとに上達している」と2人の成長を喜びます。



三ツ井小5年
大高琉生さん



床を強く踏み込み、柔らかな舞にメリハリをつける

紅白の幕を上げて登場する鈴木舞



扇や刀が踊りのポイントになる荒舞

お父さんやお兄さんの影響で小1から練習を始めました。荒舞とさざり舞を習得していて、荒舞が得意です。扇と刀を使う激しい踊りです。床を踏んで音を出すのが難しく練習中です。



三ツ井中2年 大高悠斗さん

保育園の時から憧れがあり小1で練習を始めました。小3で初舞台を経験。これまでに荒舞と鈴木舞、さざり舞を習得しました。得意なのが鈴木舞。正式に踊ると15分にもなります。自分も疲れるけれど、はやし方も間違えずに続けられるのがすごいと思います。

能代市民俗芸能連合会の
事務局 畑中悟さんに
お話を聞きました！

能代に民俗芸能はいくつありますか？

現在、連合会に加盟しているのが18団体あります。

子どもたちが伝承活動を行っていることをどう思いますか？

歴史を絶やしたくないという思いが強いですが、涙が出るほどうれしいです。今は子どもの数が減り、師匠たちも高齢化しています。少しでも興味を持って練習し、長く続けてくれたらうれしいです。

踊りやおはやしはどのように見えるのですか？

踊りは目で見て、おはやしは耳で聞いて覚えます。おはやしは代々、口で伝えてきましたから楽譜はありません。笛であれば自分で音を探しながら自分の形を作っていきます。

民俗芸能の魅力は何ですか？

民俗芸能は「一糸乱れぬ」というものはありません。師匠から受け継いだ形に自分の動きや音を加えた個性が魅力です。子どもたちには、大人になったときにいつでも「踊りたい」と思えるように地元の踊りを好きになってほしいです。

次ページに続くよ！